

旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る数値目標等の状況について

○人口全体の状況について

◇総人口と人口比率

	令和元年(2019) 10月		令和2年(2020) 10月		令和3年(2021) 10月		令和4年(2022) 10月	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
年少人口 (0~14歳)	36,248	10.8	35,416	10.7	34,451	10.5	33,446	10.3
前年増減	▲ 909	▲ 0.2	▲ 832	▲ 0.1	▲ 965	▲ 0.2	▲ 1,005	▲ 0.2
生産年齢人口 (15~64歳)	186,431	55.7	183,786	55.4	181,087	55.1	178,430	54.9
前年増減	▲ 3,297	▲ 0.4	▲ 2,645	▲ 0.3	▲ 2,699	▲ 0.3	▲ 2,657	▲ 0.2
老年人口 (65歳以上)	112,016	33.5	112,748	34.0	113,050	34.4	113,163	34.8
前年増減	904	0.6	732	0.5	302	0.4	113	0.4
合計	334,696	100	331,951	100	328,589	100	325,040	100
前年増減	▲ 3,302	-	▲ 2,745	-	▲ 3,362	-	▲ 3,549	-

※各年の合計には年齢不詳1人を含む。

◇自然増減  
(各年1~12月)

	令和2年	令和3年	令和4年	R4-R3差
出生数	1,917	1,841	1,624	▲ 217
死亡数	4,669	4,736	5,084	348
増減計	▲ 2,752	▲ 2,895	▲ 3,460	▲ 565

◇社会増減  
(各年1~12月)

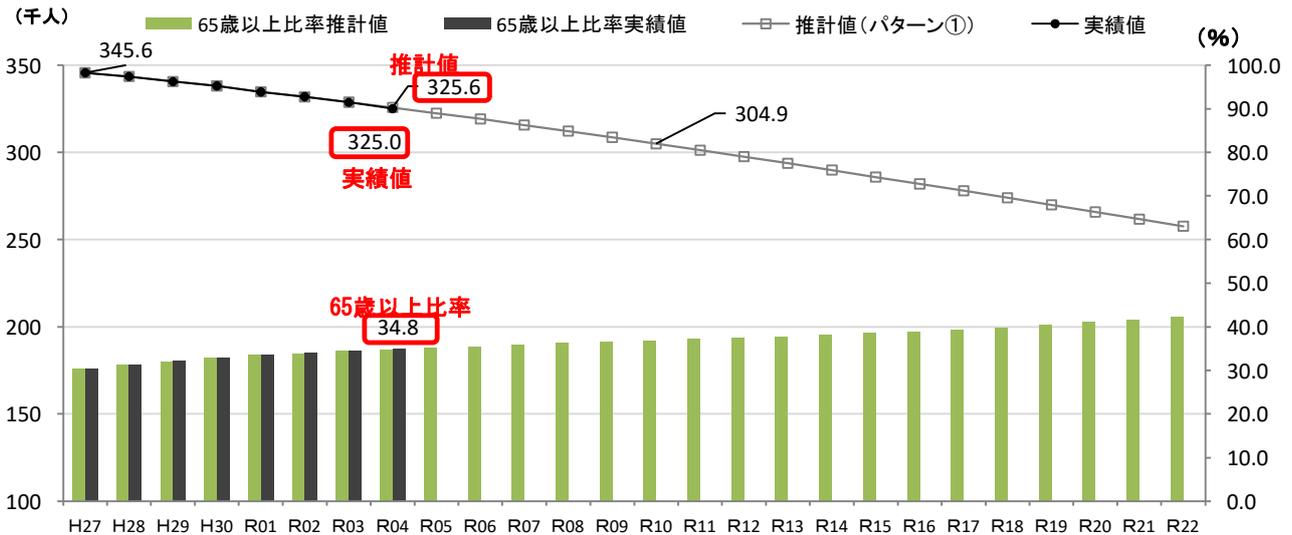
	令和2年	令和3年	令和4年	R4-R3差
転入者数	10,490	10,039	10,135	96
転出者数	10,411	10,581	10,449	▲ 132
増減計	79	▲ 542	▲ 314	228
札幌市	▲ 920	▲ 1,111	▲ 831	280
道内札幌以外	1,020	950	896	▲ 54
道外	▲ 21	▲ 353	▲ 379	▲ 26

※転出超過の主な内訳  
※道外には職権登録・削除分を含む

- 自然増減:出生数減少と死亡数増加の傾向が顕著となり,出生数,死亡数両面から自然減が拡大している。
  - 社会増減:転入者数が増加し,転出者数が減少に転じたことから社会減少幅は縮小した。
- ※札幌圏をはじめとする都市への転出が目立つ。

◇人口ビジョンの推計人口との比較

本市の将来推計人口と現状の比較



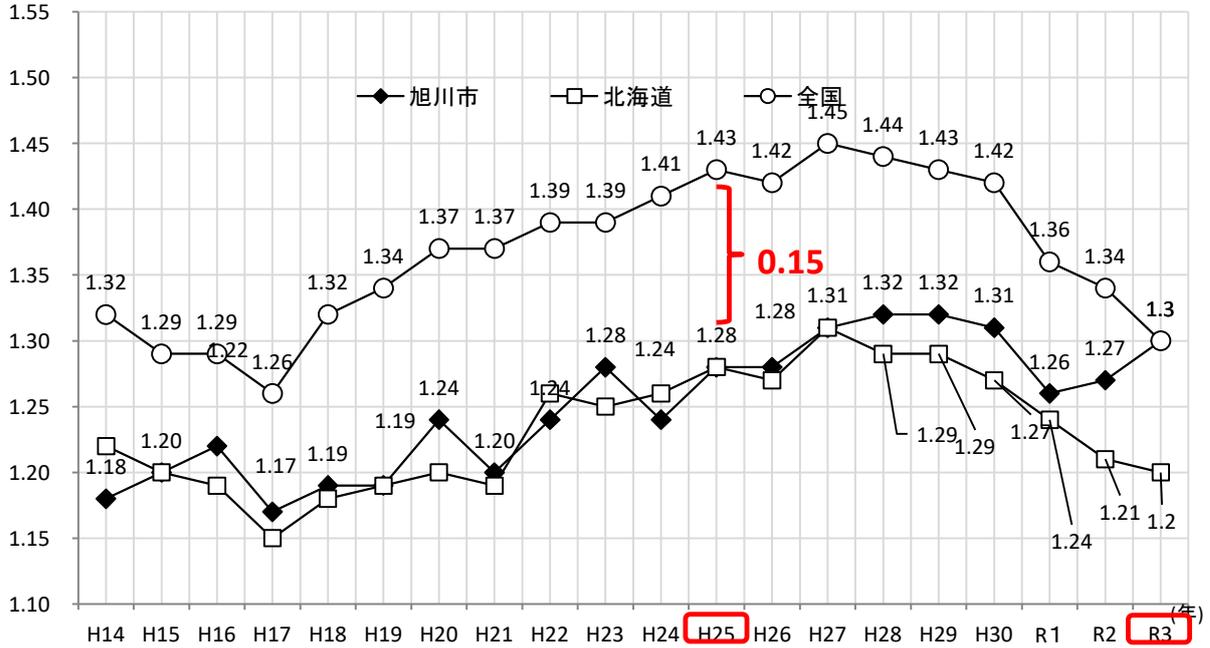
資料:旭川市(第8次総合計画,人口ビジョン)

- 実績値が推計値を618人下回り,65歳以上比率は推計値34.8%と同率であった。
- 令和元年人口推計(パターン①:現状が将来にわたり継続すると仮定)を超える少子高齢化が進行している。

○基本目標1

指標	数値目標
合計特殊出生率 (H25年現在:全国1.43, 道1.28, 市1.28)	全国平均との乖離を縮小し, 全国水準まで引き上げる

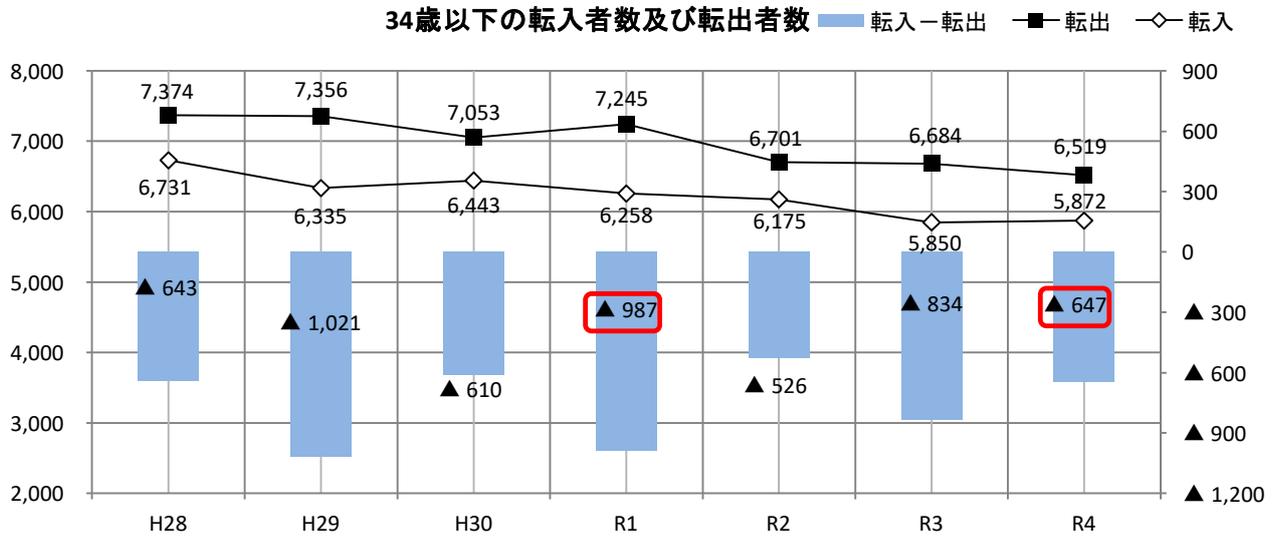
(人)



- 合計特殊出生率は前年より0.03ポイント上昇し1.30となった。
- 北海道の1.20を上回り, 全国1.30との差は無くなった。
- 本市は平成25年当初から比べ0.02ポイント上昇したものの, 全国平均及び北海道は下降している。

○基本目標2-1

指標	数値目標
34歳以下の社会減(転入者数－転出者数)の減少 (H30年10月～R1年9月実績: ▲987人)	▲332人(H27年実績)より社会減を減少(R6年度)



<参考>旭川市の年齢別人口動態(基準日:各年10月1日)

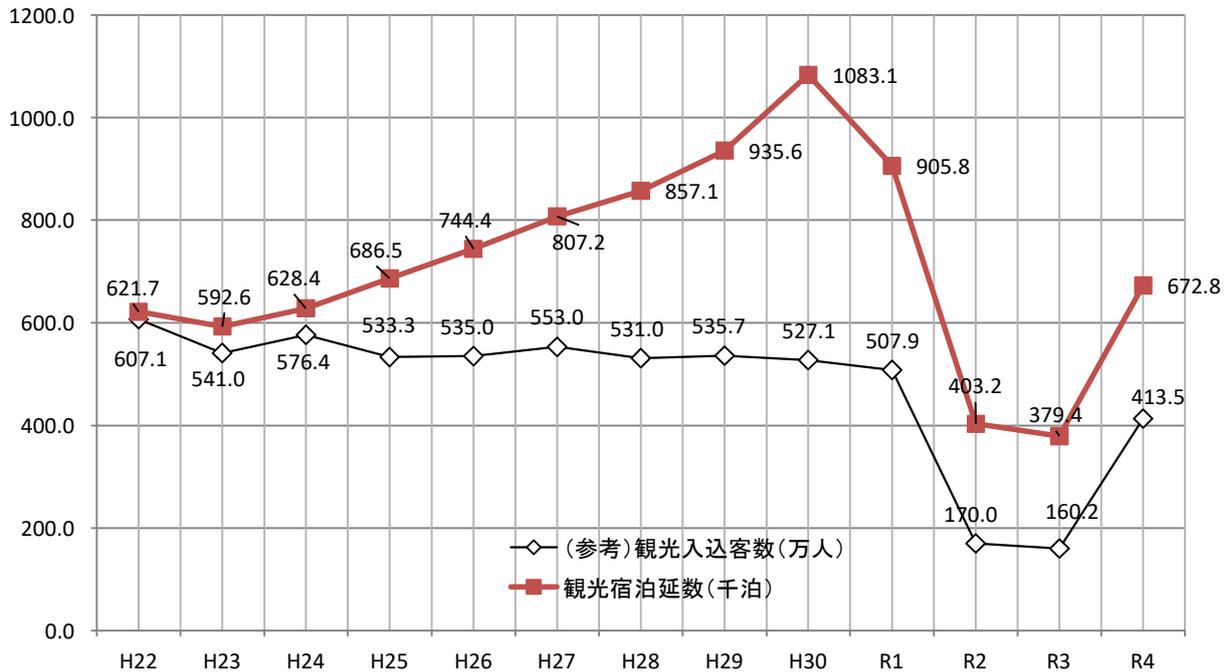
年齢階級(歳)	転入						転出						転入-転出					
	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計
R3	984	753	1,722	1,389	1,002	5,850	1,087	1,077	1,995	1,479	1,046	6,684	-103	-324	-273	-90	-44	-834
R4	975	678	1,763	1,396	1,060	5,872	1,030	978	1,848	1,607	1,056	6,519	-55	-300	-85	-211	4	-647
R4-R3	-9	-75	41	7	58	22	-57	-99	-147	128	10	-165	48	24	188	-121	48	187

		転入						転出						転入-転出
		0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	
R4	1月	47	8	57	60	52	224	30	18	95	72	51	266	-42
	2月	31	27	99	47	45	249	47	9	96	95	59	306	-57
	3月	261	151	514	281	226	1,433	395	437	644	436	287	2,199	-766
	4月	254	171	287	266	249	1,227	158	300	288	265	157	1,168	59
	5月	41	27	129	104	56	357	46	34	122	87	52	341	16
	6月	31	18	96	94	62	301	31	26	104	98	57	316	-15
	7月	51	145	141	113	65	515	59	23	76	85	72	315	200
	8月	72	23	108	115	71	389	80	27	104	80	79	370	19
	9月	55	42	92	87	51	327	45	63	101	104	60	373	-46
	10月	51	22	113	93	69	348	57	17	92	96	66	328	20
	11月	46	19	99	73	51	288	31	6	82	81	48	248	40
	12月	54	16	57	46	65	238	37	21	86	79	42	265	-27

- 転出者数が165人減少し、転入者数が22人増加したことから、転出超過数は647人となり、前年比187人減少した。
- H30年10月からR1年9月の転出超過数は987人からは改善が見られるものの、引き続き若年層の人口流出は進んでいる。
- 各月の年齢別転出入をみると、新学期や新卒入社の時期である3月は大幅な転出超過となっており、都市圏の学校や企業へ進むために転出が大きいと考えられる。一方で、若年層においても転入超過となっている月もある。

○基本目標2-2

指標	数値目標
観光宿泊客延数(H30年度:1,083千人泊)	1,300千人泊(R6年度)



観光入込客数	対前年(R4/R3)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		R4	52.1	263.2	429.7	576.1	530.4	684.0	354.6	216.2	296.0	157.3	313.6	262.1	4,135.3
		R3	30.1	71.2	93.5	246.9	261.4	146.7	245.3	138.9	139.1	58.3	65.7	104.5	1,601.6
			173.1%	369.7%	459.6%	233.3%	202.9%	466.3%	144.6%	155.7%	212.8%	269.8%	477.3%	250.8%	258.2%

宿泊延数	対前年(R4/R3)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		R4	30.3	47.3	50.2	82.9	89.7	65.5	61.5	34.6	50.2	53.0	53.6	54.0	672.8
		R3	18.6	21.4	18.5	49.3	46.8	24.5	42.2	32.0	36.8	32.8	22.6	33.9	379.4
			162.9%	221.0%	271.4%	168.2%	191.7%	267.3%	145.7%	108.1%	136.4%	161.6%	237.2%	159.3%	177.3%

外国人宿泊延数	対前年(R4/R3)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
		R4	0.0	0.1	0.1	0.4	0.8	0.2	1.1	1.7	9.6	11.1	15.2	8.2	48.5
		R3	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	1.0
			-	-	100.0%	400.0%	400.0%	200.0%	1100.0%	-	4800.0%	5550.0%	-	-	4850.0%

- 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から回復が見られ、観光入込客数は対前年比258.2%、宿泊延数は対前年比177.3%の増となった。
- コロナ以前の令和元年度比で入込客数81.4%、宿泊延数74.3%と、いずれも7割を超えるまで回復した。
- 特に、10月から3月の下期には、新型コロナウイルスの水際対策が令和4年10月11日から大幅に緩和されたことにより、外国人宿泊延数は、令和3年度比で4,850%と大幅増加するなど、インバウンドの回復が見られた。

○基本目標3

指標	数値目標
産業全体の付加価値額【RESAS】(H28年度:380,107百万円)	471,332百万円(R6年度)

- 新型コロナウイルス感染症により大きく影響を受けた令和3年度の数値であるが、令和3年度における純付加価値額は368,130百万円で、平成28年度と比較して119億7千7百万円の減となっている。